

皮膚・頭頸部疾患

科目責任者 井 川 健
学年・学期 6 学年

I. 前 文

これから国家試験を向かえる6学年に対して皮膚、耳鼻咽喉、歯、口腔、眼の領域の疾患を今一度、重要なポイントに焦点を当て講義を行う。講義は4学年までの基本的事項を中心とした基礎編から一歩進んだ上級編となるが、この領域に登場する臓器は触覚・視覚・聴覚・嗅覚・味覚の五感に関わり、その他の平衡感覚や外界からの保護、呼吸、咀嚼などの機能を持ち、深く学べば大変興味深い分野である。

II. 学修の到達目標

各科の講義到達目標に準じる。

III. 求められる事前学習（20分）、事後学習（20分）

- ・各科の講義学習内容に準じ事前に学習内容を把握し理解を深めておく。
 - ・事後学習は各科の学習内容に対し、さらに理解を深めておく。
 - ・予習用資料を配信するので必ず予習すること。
- 講義当日この予習資料よりミニテストを行う場合があります。

IV. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	8	3	火	1	口腔疾患・口腔ケア 前10分 後15分	口 腔 外 科 学 川 又 均
2		3	火	4	国試対策Ⅱ（感染症） 前10分 後10分	皮 膚 科 生 嶋 岡 弥
3		3	火	5	国試対策Ⅰ（悪性腫瘍）	皮 膚 科 寿 塚 田 鏡
4		6	金	6	国試対策（眼科） 前40分 後40分	眼 科 正 妹 尾
5		6	金	7	国試対策（耳鼻咽喉・頭頸部外科） 前30分 後30分	耳 鼻 咽 喉 ・ 頭 頸 部 外 科 学 平 林 秀 樹

V. 評価基準（成績評価の方法・基準）

試験は60点以上。講義への出席は2/3以上。

VI. 医師国家試験出題基準（平成30年版）における区分

必修 8-E②③④⑤

7-C①～⑤

7-C⑥～⑩

12C④

各論（Ⅲ）2-F①～⑧

2-G①②

3-J①～⑧

3-K③～④

3-L①～②

Ⅶ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	